

例言

○ 設定条件

前年度の報告書に準じ以下の設定に基づき記載した。

1. 伝統工法の建築物のリフォームを対象とする。
2. 住宅を主たる用途とする。
3. 建築は木造軸組み平屋建てを原則とする。
4. 工事は現地改修・再生とする。
5. 移築工事は除外する。
6. 解体は半壊体の範囲とした。

《補記》

○伝統民家（古民家）の位置付けは、原則として年代ではなく建築工法とした。

○記載した内容の一部は、近年の木造住宅にも対処、応用できることを配慮した。

本書における【指標】【指針】【基準】とは以下の意味とした。

【指標】

現存する伝統民家が兼ね備えている工法等について、有効性が高いと判断した内容、手法等を指す。またそのような条件に適合する具体的な対象を「指標モデル」という表現を使っている。

【指針】

指標から得られた「知見」と、具体性の高い「基準」との中間的、橋渡しの条件・内容として位置付けている。「基準」より柔軟性があり、適正と判断する方向性を示している。

【基準】

設計施工における具体的な手法・工法の仕様とその解説に相当する位置付けとした。ただし本稿での「基準」は今後に向けて提示された「案」として解釈していただきたい。

○ 構成内容

本書の内容は以下の構成とした。

1. 指標編

現存する伝統民家から特質的価値を有するに事例を調査、分析し、考察を加え、指針・基準作成上のモデルとして位置付けている。モデルの中心をなす主題は、主に室内の温熱環境に関わる内容に着目し分析・評価をおこなった。

2. 仕様編

本編は「指針」と「基準」により構成した。共に指標編の分析と評価を実際の改修に反映するための内容とした。「指針」は計画レベルの基本事項とし、「基準」は具体的手法とその展開事項とし、各項目別に解説や図面を記している。

3. 素材集解編

伝統工法の継承における必要な素材の特質、性能等を詳述している。ここでは工業系素材に関しては多くの情報が提供されていると判断し触れていない。

4. データ資料

本編では温熱環境や伝統素材などに関する物理的データを収録することを目的に据えた。しかし伝統民家で活用されていた素材などに関してのデータや文献は限られる。そのような背景をふまえ、渡邊要著『建築計画原論』（1951）は有効な目安とも考えられ、物理的な数値データ類を抜粋し編集した。今後さらに充実させたい。

○ 本書の見方

1. 説明内容は項目別にコード番号を付した。
2. 内容は1項目1ページを原則とした。
3. 同一のテーマが数ページに及ぶ場合は、コード番号は同一とした。
4. 巻末のデータ資料にはコード番号は付していない。